

とよ た こう じ
豊田行二下関市
(1936～1996)

豊田行二は、当初は政治家をめざして国会議員秘書などを務めていたが、処女作『示談書』が直木賞候補に挙げられ、昭和四十四年に単身上京、文筆活動に専念した。初期には『消えた三億円』『青春国会劇場』など政界インサイド・ストーリー作家ともいふべき情報小説の分野で、プロ作家としての席を占めた。東南アジア、中近東地域に取材した国際企業の野望と挫折を描いた小説も多数。作家自身のサービス精神も旺盛で、つねに「面白い小説」を量産した。後に官能小説作家として君臨したが、出版数四百五十冊はプロ作家としての誇り高き金字塔である。

(武部忠夫)

【主な著作】

『だれも知らない』(山口新聞社、昭和45年)

『消えた三億円』(三一書房、昭和47年)

『小説示談書』(春陽堂書店、昭和55年)